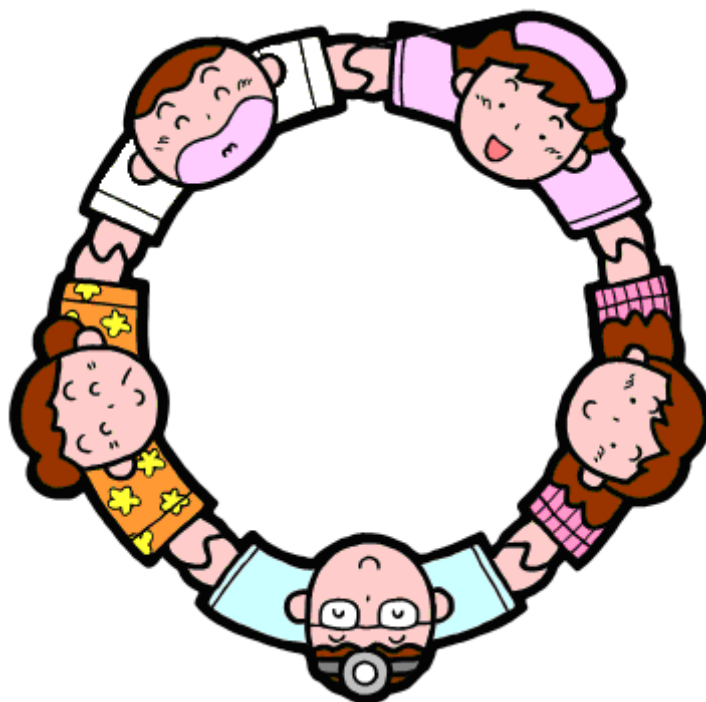


GEM/DTX 療法の手引き

(ゲムシタビン/ドセタキセル)



2020年2月版

国立がん研究センター中央病院

骨軟部腫瘍・リハビリテーション科 薬剤部 看護部

はじめに

肉腫の進行を抑えるために、全身治療として様々な抗がん剤が用いられます。ゲムシタビン/ドセタキセル療法（以下 GEM/DTX 療法）は、作用の異なる 2 種類の抗がん剤を組み合わせる治療のひとつです。

抗がん剤治療には誰もが不安や心配を抱くものです。しかし、副作用は薬の種類によっても異なりますし、その出かたには個人差があり、すべての人に同じように起こるわけではありません。また、現在では副作用を軽減する治療法もかなり進歩しています。

この小冊子には、GEM/DTX 療法のスケジュール、使用するお薬などの概要と、起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。

GEM/DTX 療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときの対処方法を知ることにより、治療を続けながらより良い日常生活を送れるよう、この小冊子を役立てていただければ幸いです。

国立がん研究センター中央病院
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

方 法

《点滴に用いられる薬》：1日目

以下の3本の点滴ボトルを順番に点滴します。

<u>ボトルの内容</u>	<u>点滴時間</u>
デキサメタゾン注（吐き気予防）	約15分
ゲムシタビン注（抗がん剤）	約30分
生理食塩液（点滴管内の抗がん剤を洗い流す）	15分以内

《点滴に用いられる薬》：8日目

以下の4本の点滴ボトルを順番に点滴します。

<u>ボトルの内容</u>	<u>点滴時間</u>
グラニセトロン注 + デキサメタゾン注 （吐き気の予防 + むくみの予防）	約15分
ドセタキセル注（抗がん剤）	約60分
ゲムシタビン注（抗がん剤）	約30分
生理食塩液（点滴管内の抗がん剤を洗い流す）	15分以内

《注射方法》：3週間ごとに点滴を行います。

点滴にかかる時間は、

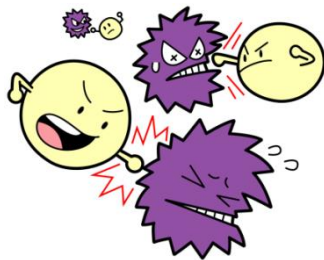
1日目：約60分、8日目：約120分です。

（点滴前に採血を行い、データを確認します）

注射名：ゲムシタビン注



無色透明



細胞が分裂する時、DNA の合成が行われます。これは、がん細胞が分裂する時にも起こります。ゲムシタビンは、がん細胞に取り込まれて、DNA の合成を阻害し、がん細胞の分裂を止めることで、がんの増殖を阻害したり、死滅させます。

注射名：ドセタキセル注



無色透明



ドセタキセルは、イチイ科の植物成分を原料として半合成された化合物です。細胞が分裂する際に必要な細胞構成成分の一つである微小管を安定化および過剰発現させることにより、がん細胞の増殖を阻害します。

(実際の点滴バックは 写真と異なることがあります。)

このくすりの投与の副作用として、手足のむくみや胸やお腹への水分貯留が報告されています。この症状を予防するために、副腎皮質ホルモン（デキサメタゾン注）をあらかじめ投与します。

ドセタキセルは、添加剤としてアルコールを含んでおりますので、アルコールに対してアレルギーのある方やお酒に弱い方は、お申し出下さい。

《8日目点滴後の内服薬》：むくみや吐き気の強い方のみ服用します。



デカドロン錠 4mg

むくみや吐き気の予防



朝夕食後に 1 錠ずつ 点滴翌日朝食後より 4 回服用



現在、他のくすりを服用されていて、薬の飲み合わせなど、気になることがございましたら医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

《治療スケジュール》：

コース		1							2	
日		1	~	8	9	10	~	21	1	~
点滴		↓		↓					↓	
内服 (必要時のみ)	朝				⬡	⬡				
	夕				⬡	⬡				

副作用とその対策



GEM/DTX 療法の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度は個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

発疹

発疹は 4 人に 1 人くらいの割合で起こります。皮膚が赤くなったり、かゆみをともなうこともあります。症状に合わせて飲み薬や塗り薬を使用する場合があります。強く出た場合は、治療をお休みして様子を見ることもありますので、医師・看護師・薬剤師に相談して下さい。

発熱

GEM/DTX 療法を受けてから 3 日以内に 4 人に 1 人くらいの割合で 38℃ くらいの熱が出ることがあります。病院で解熱剤を渡されている場合は指示通り服用して下さい。

点滴後 1 週間を過ぎてからの 38℃ 以上の発熱は抗生剤の服用が必要になる可能性が、ありますので病院に連絡をして下さい。



アレルギー

アレルギーは、異物から自身を守るためのシステムが過剰に働いた際に起こり、皮膚に湿疹が出来るような軽症のものから、血管が拡張し血圧が低下するような重篤なものまであります。

点滴中にじんま疹、顔のほてり、冷や汗が出て気分が悪くなったりした場合には、医療スタッフにお申し出下さい。

ドセタキセルは、添加剤としてアルコールを含んでおりますので、アルコールに対しアレルギーのある方やお酒に弱い方は、お申し出下さい。

口内炎

口の中に痛みや違和感を感じる方がいます。



対策

： 予防のため、口の中を清潔にし、うるおいを保

っておくことが重要です。歯ブラシはやわらかいものを使い、しっかりと歯と歯ぐきをブラッシングしましょう。刺激の強い食べ物や熱すぎる食べ物は避けて下さい。

味覚障害

味の感じ方が変化する方がいます。



対策

： 口内炎と同じように、口の中を清潔にし、うるおいを保っておくことが重要です。治療終了後に回復することが多いですが、長時間持続するケースもみられます。

吐き気・嘔吐

GEM/DTX 療法による吐き気や嘔吐の症状が出ることは比較的少なく、一般的には軽度です。しかしこの症状が現れた場合は以下の対策を参考にしてください。



対策：

吐き気止めの内服薬が処方されている場合は、指示どおりに服用してください。吐き気のコントロールがうまくいかない場合、次回診察時に工夫をします。吐き気の程度・吐いた回数・食事の摂取量・排便の状況を記録し、担当医に伝えてください。

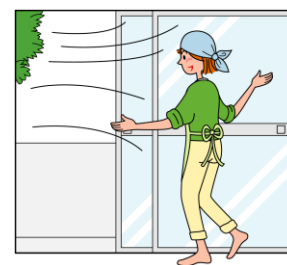


食事が取れないときは、なるべく水分をとるよう心掛けましょう。（水・フルーツジュース・スポーツ飲料など）。また消化の良い食事を少量ずつ何回にも分けて取られるのも良いでしょう。



また口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にすることで予防することもできます。

趣味を楽しみ、気を紛らわすこともときに効果的です。



白血球減少

白血球は、体内へ細菌が入り込まないように守っている血液成分の1つです。一般的にくすりを注射してから1～2週間目に白血球の数が少なくなり、3～4週間目で回復してきます。

白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、発熱や感染を起こす可能性があります。感染症はひどくなると生命に危険を及ぼす可能性もあるので、白血球が減っている時期の感染の予防と感染をおこした場合の適切な対応が重要です。

対策：感染症の予防のために、外出から帰宅した際には手洗いやうがいをしましょう。

入浴やシャワーで、体を清潔に保ちましょう。

爪は短く保ち、皮膚に傷をつくらないようにしましょう。



38℃以上の発熱時には感染が疑われますので、抗菌薬の内服や点滴などの対応が必要です。発熱（38℃以上）や下痢などの症状が重なった時は、病院へ連絡して下さい。

血小板減少

血小板は、血液を固まりやすくする働きがあります。血小板の数が少なくなると、出血しやすくなります。

出血傾向がみられる場合は、輸血を行う場合もあります。

対 策 : けがや転倒の危険がある作業は避けましょう。

体を洗う時に強くこするのはやめましょう。

トイレの後はやさしく拭きましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいものを使い、やさしく磨くようにしましょう。

脱 毛

くすりを注射してから2～3週間過ぎた頃よ

り、髪の毛が抜けてきます。脱毛時に頭皮がピリピリと痛

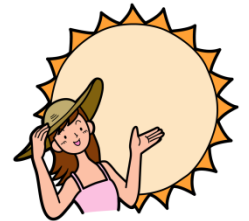
むことがあります。次第におさまります。この脱毛は一時的なもので、全ての注射を終了してから2～3ヶ月で回復し始めます。



対 策 : 髪の毛が回復してくるまでの間、かつら

やさカーフなどをご用意すると良いでしょう。またショ

ートヘアーにするなど清潔さを保つことも大切です。



シャンプーは刺激の少ないものを使用しましょう。そして外出の際は直射日光を避けるため帽子をかぶると良いでしょう。

爪の変化

爪が変色したり、時にははがれるなどの変化がみられ

ることがあります。治療が終われば、多くの場合回復いたします。

爪は短く清潔に保ちましょう。爪がはがれる、

浸出液が出る、爪周囲が赤くはれて痛みがある

などの場合には、担当医にご相談下さい。



四肢への影響（関節痛・しびれ）

GEM/DTX 療法の場合、足の関節・筋肉の痛みや脱力感を感じることがあります。多くの場合は、くすりを注射してから2～3日後に症状が現れ、数日以内におさまってきます。

また手足に正座をした後のようなしびれを感じる方がいます。この症状は、手袋と靴下の着用範囲に起こりやすいと言われています。

もしこの症状が現れた場合は
以下の対策を参考にしてください。



対策： しびれは、手袋と靴下の着用範囲に起こりやすいと言われています。抗けいれん剤やビタミン剤などの投与により軽減することがあります。

関節の痛みには、痛み止めのくすりを用いて症状の軽減をはかります。



ボタンがかけづらい、物を落としやすい、つまずきやすいなど日常生活に支障がある場合は担当医にご相談下さい。

むくみ(浮腫)

投与を重ねる毎に、顔や足にむくみ(浮腫)を

生じることがあります。むくみは体の中に余分な水分がたまっている状態です。このむくみは、投与が終了してから数ヶ月以内に回復していきます。また利尿剤を服用することで回復することもあります。

間質性肺炎

間質性肺炎は、頻度はまれであるものの、重い症

状になる場合があります、特に注意が必要な副作用です。

肺の炎症により機能が低下し、息切れ・咳・呼吸困難などの症状が現れます。初期の症状は軽度の発熱や咳など、風邪とよく似ており、見過ごされやすいこともあるので、このような症状がある場合は、自分で判断せず、すぐに担当医にご相談下さい

注射部位における皮膚障害

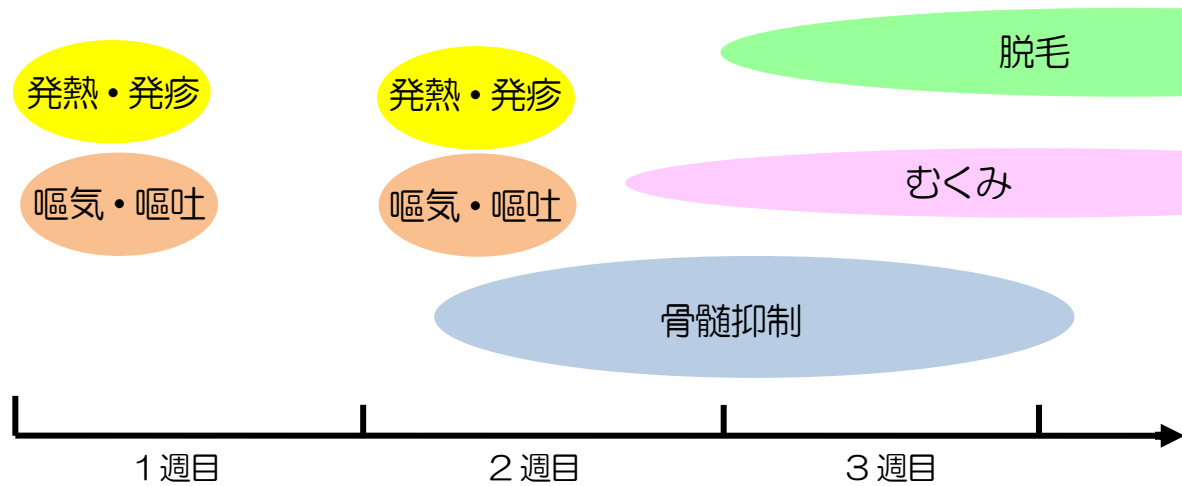
このくすりは、注射の際のわずかな漏れでも皮膚障害を起こすことがあります。

くすりを注射している間に、その注射部位が赤く腫れたり、痛みを感じる場合には、すぐに医師・看護師へお申し出下さい。

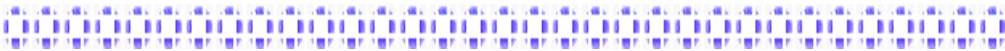


その他気になる症状がありましたら、医療スタッフへご相談下さい。

副作用の発現時期



MEMO : _____




◎ 監修 国立がん研究センター中央病院
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

◎ 編集 薬剤部

◎ 編集協力 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科
看護部

◎ 撮影協力 フォトセンター



使用イラストはMPC刊「薬と予防イラスト集」「医療と健康イラスト集」より転載